

序論)

みなさん、ペンテコステおめでとうございます。ペンテコステは交読文や子供メッセージでも確認したように【主】イエスキリストが約束した助け主である聖霊さまが、イエス様の復活の50日後に弟子たちの上に降り、そこから教会がキリストを大胆に証しするようになったことを記念する日です。

そのためペンテコステは教会の誕生日といわれることがあります。

さて、このようにペンテコステの出来事は、イエス様の約束が成就した日ですが、同時に旧約聖書にかかっている預言が成就した日でもあります。

ペンテコステと直接的に結びつく預言といえばヨエル書2章の預言ですが、今日お読みしたエゼキエル書36章もペンテコステの出来事を理解するための大切な預言です。

エゼキエル書の説明)

このエゼキエルは紀元前6世紀の預言者で、ちょうどイスラエルの歴史が「バビロン捕囚」という大きな曲がり角に入った時代です。「バビロン捕囚」は南北にわかれたイスラエル民族が400年という長い間、【主】に背き続け、悪の道を進み続けた結果であり、これはイスラエルに対する神様の裁きの御業でした。

バビロン捕囚は3回に分けて行われ、エゼキエルは2回目の捕囚時にバビロンに連れて行かれました。ですから、この預言はエルサレムやイスラエルではなく、エルサレムから800kmも離れたバビロンの地にて語られた預言となります。

今日、エゼキエル書のすべてを説明することはできませんが、エゼキエルは最初イスラエルの罪を厳しく語り、その罪に対する裁きの幻が示され、そして、33章からは神の民の回復のメッセージが語られています。

今日お読みした36章の24節に「わたしはあなたがたを諸国の間から導き出し、すべての国々から集め、あなたがたの地に連れて行く。」と語られているところからも分かる通り、この箇所は捕囚の民となっている人々が【主】によって解放され、イスラエルの地に連れ戻されることを語っている預言となっています。

そういう意味ではこの預言はイスラエル人に対する預言ですが、26-27節は明らかに聖霊が与えられることを預言している箇所なのでペンテコステの預言ともいうことができます。

そのため、今日はこの預言が語られた当時の状況を理解しながら、ペンテコステ

の預言としてこの箇所を見ていきたいと思えます。

## 1) 聖霊降臨は【主】の聖なる名を示すため

さて、まず最初にお話ししたいのは、「神様が何のために聖霊を私達に与えてくださったのか？」ということです。みなさん、【主】は何のために私達に聖霊を与えてくださったのでしょうか？ キリストを証しさせるためでしょうか？ 私達をきよめるためでしょうか？ もちろん、そのような意味もあります。

しかし、エゼキエル書は【主】の聖なる名のためにこれが行われたと語っています。22節、23節を読んでみましょう。

**36:22** それゆえ、イスラエルの家に言え。【神】である主はこう言われる。イスラエルの家よ。わたしが事を行うのは、あなたがたのためではなく、あなたがたが行った国々の間であなたがたが汚した、わたしの聖なる名のためである。

**36:23** わたしは、あなたがたが国々の間で汚したわたしの大いなる名が、聖であることを示す。あなたがたが彼らのただ中で汚した名である。わたしが彼らの目の前に、わたしがあなたがたのうちで聖であることを示すとき、国々は、わたしが【主】であることを知る——【神】である主のことば——。

先週のイザヤ書のメッセージでもお話したようにイスラエルはうなじの固い民でした。【主】が何度も神業をみせ、何度もみことばを与えたにもかかわらず、【主】に従おうとしなかったのです。そればかりか、彼らは神様に従っている振りをしながら神様の前で汚れた行いをしていました。

具体的にはどのようなことをしていたかというと、エルサレム神殿で神様を礼拝する振りをしながら、カナン人たちが行っていた偶像礼拝をしていたのです。

カナン人の偶像礼拝というのは、偶像の前で性的にみだらなことを行い、それによって生まれた子供を火で燃やしてモレクという偽りの神に捧げるというものです。これは実におぞましい汚れた行為であり、だからこそ神様はイスラエルがカナンを占領しようとするとき、そこにいるカナン人を徹底的に滅ぼして聖絶せよと命令されたのでした。しかし、イスラエル人はその神様の命令に従わず、自分たちも同じような偶像礼拝をするようになり、エルサレム神殿で礼拝をおこないながらも、同時にそのようなことをしていたのです。

みなさん、これは私達にとっても人ごとではありません。なぜならば、現代のクリスチャンも日曜日に礼拝を捧げながらも、平日はこの世の人たちと同じ用な歩み

をし、自分たちの都合によって、【主】に従う時と、自分たちの欲望に従う時を使い分けて歩むようなことがあるからです。

私達人間は、まさにこのような【主】に逆らう性質をもっており、それによって【主】の名を汚すようなことをしてしまっているのです。

そして、私達人間がそのような状況にあるからこそ、【主】はご自分が聖なる存在であることを示すために、聖霊を与え、私達をきよめ、新しくしてくださったのです。

みなさん、聖霊降臨は【主】の聖さを示すための出来事だったのです。

逆にいうと、【主】の聖さや、【主】の栄光を示すためには聖霊様の働きなしではありえないのです。

みなさん、ペンテコステの日になぜペテロたちは大胆に証しすることができたのでしょうか。それは聖霊様の働きによって彼らが【主】の栄光を現せるようになったからなのです。

神様は、私達にご自身の栄光を示すため、救い主の栄光を示すために、聖霊を与えてくださいました。

## 2) 聖霊様の働き

では、この聖霊様は私達何をしてくださるのでしょうか。エゼキエルの預言からは3つのことがわかります。

### ①きよめてくださる

まず、第一に聖霊様は私達をきよめてくださいます。25節と26節前半を読みましょう。

**36:25** わたしがきよい水をあなたがたの上に振りかけるそのとき、あなたがたはすべての汚れからきよくなる。わたしはすべての偶像の汚れからあなたがたをきよめ、

**36:26** あなたがたに新しい心を与え、あなたがたのうちに新しい霊を与える。

26節の部分はその後、説明します。

【主】なる神様はご自身の聖さのために私達をきよめてくださいました。これはイエス様もニコデモとの対話の中で語られたことです。ヨハネの福音書3章5節6節

**3:5** イエスは答えられた。「まことに、まことに、あなたに言います。人は、水と御

霊によって生まれなければ、神の国に入ることはできません。

**3:6** 肉によって生まれた者は肉です。御霊によって生まれた者は霊です。

御霊というのは聖霊様のことですね。つまり、聖霊様はわたしたちをきよめて、新しく生まれさせてくださいました。これをキリスト教では聖霊による新生といいます。「しんせい」というのは新しく生まれると書いて新生ですね。私達は聖霊によって新しく生まれたのです。

テトスへの手紙にもこのように書かれています。

### テトスへの手紙 3:5

神は、私たちが行った義のわざによってではなく、ご自分のあわれみによって、聖霊による再生と刷新さっしんの洗いをもって、私たちを救ってくださいました。

みなさん、私達の救いというのは、父なる神様のご計画であり、子なるイエスさまの御業ですが、同時に聖霊様によるきよめでもあるのです。

だから、聖霊様がしてくださることというのは、私達をきよめて新しくしてくださることが第一です。

### ②新しい心をくださる

そして、第二に聖霊様は私達に新しい心をくださいます。もう一度、26節を読んでみましょう。

**36:26** あなたがたに新しい心を与え、あなたがたのうちに新しい霊を与える。わたしはあなたがたのからだから石の心を取り除き、あなたがたに肉の心を与える。

みなさんは「心」といわれるとどうゆうイメージを持つでしょうか。一般的には、心は「知識」「感情」「意思」によって成り立つとよく言われますが、実際には心の働きとして「悲しい」とか「嬉しい」とか「苦しい」といった感情の動きを大きくイメージする人が多いのではないのでしょうか。

しかし、旧約聖書でいう「心」というのは直接的には「心臓」のことであり、旧約聖書の言語であるヘブル語では心のことをレーブといいます。このレーブということばは物理的には心臓のことを指しますが、聖書で「心」と訳されるときは感情の動きというよりは、「理性」とか「理解力」を指しています。

つまり、旧約聖書において心の働きとは「理解すること」であり、「悟ること」な

のです。そのように理解すると **26 節**の「新しい心」とか、「石の心」「肉の心」といった表現も私達のイメージとは違うものに見えてきます。

普通「石の心」と言えば、冷たく、愛がない、無関心で無慈悲な心をイメージさせますが、聖書がいう「石の心」とは理解力が鈍く、悟ることのない頑なな心を指しています。また、「肉の心」というのも血のかよった温かで愛情に溢れた心というよりは、柔軟で生き生きとした理解力や、【主】の御心を深く悟ることができる想像力をもった心ということになります。

つまり、聖霊様は神様のみ心を悟ることも、受け入れることもできない頑なな私達の心を、御言葉を素直に受け入れ、自分たちの生活に適用するための洞察に富んだ理解力をもった心に変えてくださるのです。

それこそが、聖霊様が与えてくださる新しい心なのです。

だから、ペテロたちは学がない元漁師だったにも関わらず、大胆にみことばを解き明かし、キリストの復活と救い、そして、人々の罪を大胆に語るができるようになったのです。

### ③【主】の掟に従わせる

そして、聖霊様がしてくださる 3 つ目は、私達が【主】に従えるようにしてくださることです。27 節を読みましょう。

**36:27** わたしの霊をあなたがたのうちに授けて、わたしの掟に従って歩み、わたしの定めを守り行うようにする。

先週、今週とみてきたように、私達は【主】に逆らい、【主】に従わない頑固さを持っています。でも、聖霊様が働くとき、そのような頑なな私達が喜んで【主】に従えるようにしてくださるのです。

使徒の働きをみると聖霊を受けたペテロたちが大胆にキリストを証ししていることが書かれていますが、中でも驚くべきなのは、イエス様の十字架の時にはあっちこっちに逃げてしまい、時にはイエス様のことを激しく否定していた弟子たちが、自分たちもイエス様と同じように捕らえられ、ムチを打たれたりしたのにそれでも喜んで【主】を証しし続けたことです。

これは聖霊をうける前の弟子たちには考えられないことです。なぜならば、聖霊を受ける前の弟子たちは【主】に従いますといいながらも、自分を優先していたからです。だから、彼らはイエス様の十字架の時は逃げてしまいました。でも、彼ら

が聖霊をうけたとき、たとえ自分たちが迫害されたとしても、【主】の御心を実行できたことを喜ぶようになったのです。例えば使徒の働き 5 章 40 節、41 節にはこのように書かれています。

### 使徒の働き

5:40 使徒たちを呼んで、彼らをむちで打ち、イエスの名によって語ってはならないと言いつつうえで釈放した。

5:41 そこで、使徒たちは、御名のためにはずかしめられるに値する者とされたことを喜びながら、議会から出て行った。

みなさん、聖霊様が働かれるとき、私達は自分中心から神様中心となり、たとえ苦しみがあったとしても喜んで【主】に仕える事ができるようになるのです。

### 3) 私達がなすべきこと

それではみなさん、このような聖霊様が与えられたとき、私達はどのようにするべきでしょうか。エゼキエル書 3 6 章の 2 8 節から 3 0 節はイスラエルの霊的回復だけでなく、経済的、物質的な祝福が書かれています。3 1 節と 3 2 節にはそのような神様からの祝福、回復が与えられた者に対する【主】からの命令が書かれています。3 1 節、3 2 節を読みましょう。

36:31 あなたがたは自分たちの悪しき生き方と、良くなかった行いを思い出し、自分たちの不義と忌み嫌うべきわざを憎むようになる。

36:32 わたしが事を行うのは、あなたがたのためではない——【神】である主のことば——。そのことをあなたがたは知っていなければならない。イスラエルの家よ、恥じよ。あなたがたの生き方のゆえに辱めを受けよ。」

みなさん、聖霊様が私達に与えられるとき、聖霊様は私達をきよめて新しい存在にしてくださり、私達に新しい心、【主】の御心を理解し、悟ることができる肉の心を与えてくださり、そして、私達が【主】のみことばに喜んで従っていけるようにしてください。

そして、そのように聖霊様が働かれるとき、私達の【主】がいかに聖なるお方であり、その聖なるお方の前で私達がいかに汚れた者であったかも理解することができるようになるのです。

そして、そのような聖霊様の御業を経験したものに対して、【主】は改めて「自分たちの悪しき生き方と、良くなかった行いを思い出し・・・恥じよ。あなたがたの生き方のゆえに辱めを受けよ。」と言われます。

これは悔い改めへの招きです。新生し、理解する心が与えられ、従えるようになったのならば、自分たちの過去の生き方を憎み、それを恥じて二度とその生き方に戻らないようにしなさい。自分たちの罪を罪として理解して、そこから離れるようにしなさいと【主】は命じておられるのです。

実際、ペンテコステのとき聖霊に導かれて語ったペテロの説教を聞いたイスラエルの人たちはどうしたのでしょうか。使徒の働き 2章 37節にはこのように書かれています。

**使徒の働き 2:37** 人々はこれを聞いて心を刺され、ペテロとほかの使徒たちに、「兄弟たち、私たちはどうしたらよいのでしょうか」と言った。

つまり、彼らは聖霊に導かれたペテロの説教を聞いて、自分たちの罪を悟ったのです。みなさん、ペンテコステのときに働かれた聖霊様は、ペテロたちだけにはたらいただけではなく、ペテロたちからみことばを聞いた人たちにも働かれたのです。

そして、彼らはペテロたちから「この曲がった時代から救われなさい」という勧めを受けて、罪を悔い改めバプテスマを受けたのです。41節には

**2:41** 彼のことばを受け入れた人々はバプテスマを受けた。その日、三千人ほどが仲間に加えられた。

と書かれています。

ですから、聖霊様に導かれ罪が示されたものは、その罪を憎み、それを恥、二度とそこに戻らないという悔い改めの決心をするべきなのです。

まとめ)

みなさん、【主】はご自身の栄光を示すために、汚れた私達に聖霊様を与えてくださいました。

そして、この聖霊様は、私達をきよめ、みことばを悟る力を与え、【主】に従うよ

うにさせていただきます。

私達はこの聖霊様のちからを受けて、【主】の聖さにふさわしく生きるものとされていきましょう。

そして、聖霊様の導きによって過去の罪が示されたのならば、その罪を憎み、そして、その生き方を恥、二度と戻らないように悔い改めをしましょう。

それこそが、教会が誕生したときに、聖霊様がしてくださったことです。

聖霊様の助けによって私達がよりよく【主】の栄光を現す教会となることを願います。